

2012 年の世界の LNG 需要 (輸入)、前年比 1.9%減の 2.36 億トンに

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
常務理事 首席研究員
小山 堅

世界の LNG 市場に注目すべき変化が生じている。LNG 輸入者が作る機関、GIIGNL がこのほど発表した「2012 年の LNG 産業」報告書によれば、世界の LNG 需要 (輸入) 量は 2012 年に 2.36 億トンとなり、前年比 1.9%のマイナスとなった。

世界の LNG 需要 (輸入) は、これまで順調な拡大を続けてきた。世界全体として天然ガス需要そのものが、リーマンショック後の世界的な景気低迷でマイナスに転じた 2009 年においても、LNG 需要は増加を続けてきた。その長期増加傾向を持続してきた LNG 需要が昨年は減少したのである。その背景には何があったのか。

その原因は、地域別の需要動向をつぶさに見ることで明らかになる。2012 年の LNG 需要減少をもたらした直接の原因は、欧州における極端な需要不振・大幅減少である。欧州の 2012 年の LNG 需要 (輸入) は 4,747 万トンと前年比 27%の減少となった。欧州最大の輸入国スペイン (輸入量 1,446 万トン) が前年比 16%減、第 2 位のイギリス (同 1,038 万トン) が 44%減、第 3 位フランス (同 717 万トン) が 32%減、など大手の輸入国が軒並み輸入量を大きく減らしたのである。

もちろんこの欧州の LNG 需要 (輸入) 大幅削減の最大の背景要因に、欧州経済の不振に伴うエネルギー需要そのものの低迷があることは間違いない。IMF によれば、2012 年に世界経済全体で 3.3%、OECD で 1.3%の成長となる中、EU 圏のみはマイナス 0.4%の景気後退であった。この経済不振がエネルギー需要を全体として落ち込ませたのである。しかし、従来であれば、エネルギー需要全体として不振であってもその中で、クリーンなエネルギーである天然ガスは、さほどの影響を被らずに健闘を続けてきた。それが天然ガス・LNG 需要でさえ大きくマイナスになったのには、当然それなりの理由がある。それは、欧州においては、エネルギー競合関係の中で、ガス・LNG が不利な状況を余儀なくされている、という現状である。

まず第 1 に重要なのは、石炭との関係である。欧州では、米国の状況とまさに正反対に、ガスが石炭との競合に破れ、市場を失っている。これは、米国シェールガス革命の余波をまともに受けた結果であり、米国でシェールガス革命下、需給緩和からガス価格が低下し、発電部門で石炭をガスが代替、代替された石炭が余剰となって国際市場に流入したことが

この背景となっている。欧州ではいまだに残る石油価格連動方式によって価格決定されるガスの市場シェアも相当あり、米国に比べれば高値の 100 万 BTU 当たり 9-10 ドル前後の価格推移となっている。そこに流入した安値の石炭によって、(おりしも CO2 価格の低迷という条件も重なり) 発電市場で天然ガスは苦境に立たされる結果となったのである。

第 2 は、再生可能電源との関係である。欧州では FIT 制度等の政策支援の下で、太陽光や風力などの再生可能電源促進が急速に進みつつあることは周知の通りである。欧州の競争的な電力市場の下では、需給均衡する点まで、価格の安い電源から順番で市場に投入されていく「メリット・オーダー」になっているが、原子力、石炭などがまず選択され、その後天然ガスが続くことになる。上述の通り、石炭の利用拡大が天然ガス利用を圧迫していることに加え、政策的に市場に投入されている再生可能電源が拡大すればするほど、さらに天然ガスがしわ寄せを受ける結果となっている、と指摘されている。

要するに、欧州では、経済不振及び石炭と再生可能電源による挟み撃ちのダブルパンチで、天然ガス需要が落ち込み、それが LNG 需要(輸入)の大幅な減少をもたらしているのである。しかも、上記の要因のどれもが、当面大きく変化するとは言い難く、欧州のガス市場は厳しい環境が続く可能性が高い点は留意が必要である。

欧州での需要不振の一方で、アジア LNG 市場は拡大を続けている。2012 年のアジアの需要(輸入)量は、前年比 9.2%増の 1.67 億トンとなった。アジアでは各国共に前年増となっているが、特に、世界最大の LNG 輸入国である日本の輸入量が低下した原子力発電を補うため前年比 11.4%増の 8,808 万トンとなったこと、アジア第 3 位の中国が前年比 12.2%増の 1,465 万トンとなったこと、などが特筆に価しよう。

このように、アジアの需要が大きく拡大し、他方、欧州の需要が落ち込んだことから、世界市場に占めるアジアのシェアは前年の 64%から 2012 年に 71%に拡大した。もともと LNG に関してはアジアが世界の中心であったが、その重みがさらに増しており、欧州・米国の状況を踏まえると、その流れが持続・加速する可能性は高い。だからこそ、アジア LNG 市場がどう発展していくのか、アジア LNG 市場における様々な課題(LNG 価格のアジアプレミアム問題など)への対応がどうなるか、はまさにアジアの問題でもあり、グローバルな問題となっているのである。

拡大が続くアジアの LNG 市場ではあるが、欧州での事例に見るとおり、やはり経済環境とエネルギー競合の影響でその需要動向が今後も左右されていくことは間違いない。その意味でも、アジアの LNG 価格が中長期的な観点で、他のエネルギー源との比較でも十分な競争力を確保していくことは、LNG の持続可能な需要・市場の発展・拡大にとって重要になる。アジア LNG 市場の健全な発展を実現するための取組み・検討は、政府・企業を問わず、輸入/消費サイド・輸出/生産サイドを問わず、アジア LNG 市場に関わる全ての参加者・関係者にとって今後の重要課題となろう。

以上